

海田東小学校校舎建替基本計画策定及び基本・実施設計業務公募型建築プロポーザルに係る審査結果について

1 特定結果

次のとおり、特定者と次点者を特定しました。

特定者	株式会社あい設計 (広島県広島市東区上大須賀町10番16号)
次点者	株式会社現代計画研究所 (東京都練馬区豊玉北六丁目4番4-201号)

2 講評

(1) 概要

海田東小学校の本館（昭和39年度建築）は、これまで時代に応じた整備・改修を実施してきましたが、近年は老朽化による修繕箇所が増加し、令和4年度に実施した本館老朽化詳細調査では「長寿命化改良工事よりも建替えの方がより効率的である。」と結論付けました。また、本館の建替えの検討を進める中で、様々な会議や関係者へのアンケート調査の結果、保護者説明会での意見などを踏まえ、建替対象施設について、教育活動のさらなる充実や学校敷地の有効活用の観点から改めて整理し直しました。

令和6年8月には建替対象施設を本館・新館（昭和46年度建築）・給食室（平成11年度建築）とするなど、校舎建替の基本的な方向性をまとめた「海田東小学校校舎建替基本構想」を策定しました。

町立学校の校舎建替の基本理念をベースとしつつ、海田東小学校の強み・特長や海田東地区の将来像をコンセプトに据えた特色・魅力ある学び舎づくりの実現に向けた基本計画策定及び基本・実施設計を行うに当たり、高い技術力と豊富な経験等を有する事業者を選定するため、プロポーザル方式を採用し、公募型建築プロポーザルを実施しました。

第一次審査は、設計事務所や担当技術者の実績や受賞歴等を評価項目とする参加表明書の内容の評価、第二次審査は、建替後の建物配置・平面計画に関する提案や建替えのプロセスに関する提案に加え、評価テーマとして、①「学びの中心となる学校図書館（読書・学習・情報センター）の整備」、②「快適で温かみのある空間の整備」、③「誰もが直感的に分かりやすいアプローチ計画、サイン計画」、④「長期的な視点に立った、維持管理のしやすい施設整備」、⑤「シビックプライドを育む施設整備」の5つを設定し、更に、業務の理解度及び取組意欲、業務の実施方針、全体事業期間の短縮に関する提案、全体事業費の圧縮に関する提案等を評価項目とする技術提案書の内容の評価、及びヒアリングの内容、等々の審査を行い、特定者と次点者の特定を行いました。

(2) 最終審査概要

最終審査では、技術提案書等に基づき、1者当たり発表10分、質疑応答20分の公開ヒアリングによる審査を行いました。

その後、事前に取り決めた審議プロセスに沿って、公平公正に審査委員会を開催しました。最初に全審査委員がそれぞれの提案者に対する印象を述べ、評価項目に対する評価について、一同の認識を共有し深めた上で、委員毎に評価要領に基づいた採点を行い、その平均により算出した点数を比較した結果、A者を特定者とし、E者を次点者とししました。

(3) 講評

全体的にみて、本プロポーザルは評価項目が多く、提案者にとって力量の試されるものでありました。その中で、今回ご提案いただいた5者は、各者ともにレベルの高い、意欲的な提案となっていました。その中でも、特定者及び次点者は、海田東小学校校舎建替基本構想の考え方や敷地条件等をよく理解され、海田東小学校に通う子供たちが「明日また行きたい学校」と思える学び舎としての確で実現性の高い提案内容であると認められました。

特定者（A者）の提案は、基本構想を十分に理解した上で業務の実施方針が整理されており、計画・設計の内容についてよく確認・検討されているものと感じとれる、理解度の高い提案となっていたことが評価されました。特に学校図書館についてよく研究されており、建物全体を学校図書館と捉え、ライブラリー・コモンズとする考え方は、将来の可能性を感じるものであると評価されました。また、正門から校舎までの動線が明快かつコンパクトであることや、所要室が平面的にも構造的にも的確に配置されている点も評価されました。これらに加えて、設計事務所や担当技術者の実績等を含めた総合的な評価により特定者の決定に至りました。

なお、特定者の提案内容について、委員会から次の意見が付されました。

○ 本業務は、プロポーザル方式により計画・設計者を選定する主旨のものであるため、具体的な計画・設計内容については、技術提案書に記載された内容を踏まえつつ、町、学校関係者及び地域住民等の意見も十分に取り入れた丁寧な協議を期待する。

○ 特に、施設の外觀の計画・設計については、近年建築された町の公共施設との統一感をもたせつつ、地域景観との調和を踏まえたものとし、シビックプライドが育まれ、海田らしさを随所に感じられる施設となるよう、町、学校関係者及び地域住民等と十分に協議されたい。

次点者（E者）の提案は、全体的によくまとまっており、全体事業期間の短縮とメンテナンス性の面においても評価を得ました。平面計画では、学校図書館としての機能を各階に配置し、学校全体をラーニングセンターと位置付けている点や、各階に多目的室が配置され将来に向けての可変性が確保されている点が評価を得ました。更に、海田町の歴史や文化をよく研究されており、それらを建築計画にうまく取り入れ、施設の外觀においてもシビックプライドが育まれるデザインとされている点も評価を得ました。また、地域の方々と共につくる学校園を整備することにより、ふるさとへの愛着を育む仕組みづくりも評価されました。これらに加えて、設計事務所や担当技術者の実績等を含めた総合的な評価により次点者の決定に至りました。

非特定者（B者、C者、D者（発表順））は、業務への取組意欲やコンパクトな配置計画・平面計画、先進的な学校図書館づくり等について評価されました。一方で、教室等の拡張性や外部との連続性に物足りなさを感じる点や、シビックプライドを育みにくい外觀となっている等から、特定には至りませんでした。

3 審議経過等

(1) 審議内容

ア 評価基準、評価要領等の策定

設計事務所や担当技術者の実績や受賞歴等の参加表明書の評価基準（第一次審査の評価基準）に加えて、建替後の建物配置・平面計画に関する提案や建替えのプロセスに関する提案や、評価テーマとして、①「学びの中心となる学校図書館（読書・学習・情報センター）の整備」、②「快適で温かみのある空間の整備」、③「誰もが直感的に分かりやすいアプローチ計画、サイン計画」、④「長期的な視点に立った、維持管理のしやすい施設整備」、⑤「シビックプライドを育む施設整備」の5つを設定し、更に、業務の理解度及び取組意欲、業務の実施方針、全体事業期間の短縮に関する提案、全体事業費の圧縮に関する提案を記載した技術提案書の評価基準（第二次審査の評価基準）及び評価要領等を策定

イ 技術提案書の提出者の選定（第一次審査）

参加表明書の提出者（９者）について，第一次審査の評価基準による評価を行い，技術提案書の提出者（６者）を選定

ウ 計画・設計候補者の特定（第二次審査）

提出された技術提案書（５者（１者辞退））について，公開ヒアリングを実施した上で，第二次審査の評価基準による評価を行い，特定者及び次点者の各１者を特定

(2) 審議経過

令和６年９月３０日	第１回審査委員会	評価基準，評価要領等の策定
令和６年１０月１日	公募型プロポーザル公示	
令和６年１０月１５日	参加表明書提出期限	９者提出
令和６年１０月１７日	第２回審査委員会（書面開催）	技術提案書の提出者の選定（６者）
令和６年１０月１８日	技術提案書提出要請	
令和６年１１月１２日	技術提案書提出期限	５者提出（１者辞退）
令和６年１１月１９日	第３回審査委員会	公開ヒアリング（５者）， 計画・設計候補者の特定

(3) 審査委員会構成

[審査委員会委員（順不同・敬称略）]

氏 名	役 職 等	専門分野
森保 洋之	広島工業大学 名誉教授	建築計画
亀谷 清	公益社団法人日本建築家協会中国支部元支部長	建築デザイン
元廣 清志	公益社団法人広島県建築士会相談役	建築設計・構造
川畠 満	広島県土木建築局建築技術担当部長	建築行政
蓮浦 顕達	広島県教育委員会事務局個別最適な学び担当課長	教育行政
後藤 友則	海田東小学校 PTA 会長	保護者代表
新藤 正敏	海田町教育委員会事務局教育次長	施設主管
木村 生栄	海田町建設部長	施設主管
齊藤 知法	海田東小学校校長	学校代表